

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372601098		
法人名	有限会社 ヒューマン・ケア		
事業所名	グループホーム ヒューマンケア (すずらん)		
所在地	熊本県合志市幾久富1909番地700		
自己評価作成日	H29年12月1日	評価結果市町村受理日	H30年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市上通町3-15 ステラ上通ビル4F
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節の木々や花がいつでも観賞できる建物の構造になっており、入居者や家族がゆっくりと庭がある。歌や尺八、日舞、ギター、おやつ作り、みそ造りなど多種類の地域ボランティアの交流を通し関わりが持てるようになっている。また、地域支援事業の一環でホームでの食事を受けており、更に連携が持てるようになっている。交流室においては地域の放課後子ども塾入り子ども食堂の活動拠点として場所の提供を行っている。合志市とのタイアップである公園子ども支援に関しては、事業所の代表が中心となり管理や支援を担う。入居者様の健康管理に於いて、定期往診体制として循環器科内科、歯科、皮膚科の訪問治療を行い薬局からの薬がけられるようになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を作り、玄関・事務所・交流室に掲示。又、代表が出席する方針会を1回/月開催し、ほぼ全員出席する中で、代表からの理念の話しも度々受けている。最近、新人スタッフに周知するまでが出来ていない。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	園児や学生、ボランティアの方々等が自然と集えるように交流室を設け、広い範囲で交流が出来る様にし、又、イベント等で交流室を利用し、会合などでも利用出来る様に、場所の提供等も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に、地域の高齢者の方々の状況等、情報提供して頂いたり、普段から来られる地域のボランティアの方や、ご家族等からの相談等に対応している。又、運営推進会議の中でも、認知症に関する知識や情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施している。会議では、ホームの取組みを報告したり、広報誌を配布し、日頃の入居者様の様子をお伝えしたり、家族アンケートの結果や外部評価の結果も報告し、ご意見も頂いている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員にもなって頂き、運営推進会議にも毎回出席して頂いている。又、何かあれば、すぐに連絡をとり相談できる関係作りは出来ており、連携が取れてきていると思う。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は、極力しない姿勢でケアを実行している。マニュアルを作成し勉強会を行いながら、スタッフの認識を高めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての職員研修を行ったり、又、職員の入居者様に対する声掛け(言葉づかい)や態度などについて、振り返りを行う機会を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内での職員研修は殆ど出来ていない状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時等、出来るだけ、十分な時間をとり、納得のいく説明をする様心掛けており、又、その都度、不安に思われる事等ある時は、話をするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、運営推進会議や家族会の時等に、意見を聴く機会としたいと思っているが、中々意見が出てこない。最低年1回ご家族へアンケート調査を行うようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、月に1回行う方針会に於いて、意見交換は出来ている。管理者は、代表者の代行として、細部の話し合いを行っている。必要時のスタッフとの個別面談は行っているが、定期的な全職員を対象とした個人面談は、最近出来ていない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者が仕事をしやすい様に(職員指導も含めて)過度に前面に出ることなく、管理者を中心にした運営を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	専門化研修や外部研修への定期的な研修を受講するように、計画を立て実施している。又、資格取得の為にモチベーション作りを検討している。(一部では、資格手当を実施している)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック内での連絡協議会研修や懇親会に積極的に参加して交流を持ちお互い連携をとることを奨励されている。研修生受け入れも積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みがあった時から、十分話を聴き、本人の意向も取り入れられるように努力している。入居前体験も取り入れ、不安や混乱防止に努めている。カンファレンスや、日常的にスタッフ間のミーティングの中でも、その不安を考え、ケアについて考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みがあった時から、出来るだけ十分な時間をとり、ご家族の話を聴くように努めている。ご家族の抱えられている不安等、少しでも軽減出来る様、ご家族の立場に立って考え、家族との関係作りにも努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前から家族が必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めたアドバイス等も行い、出来るだけの対応は行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	茶碗拭きや食事の下ごしらえ、洗濯たみ等、利用者様と一緒にやっている。手伝ってもらう事に対し、感謝の気持ちを伝える。利用者様から学ぶ事も多い。利用者様からもケアに対しての感謝の気持ちを伝えられる。そういう支えあいの関係が出来ていると思う。入居者様同士の助け合いもみ		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	不穏時や身体レベルが落ちてきた時など、スタッフだけではなく家族とも話し合い、対応策を考えるようにしている。受診や外出も協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者のご家族、知人、友人が気兼ねなく来訪されやすい雰囲気づくりに心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が困らん出来やすいようにしている。入居者の方の中で孤立する人が出ない様スタッフが関わっている。トラブル時の自己解決力を把握し、必要時調整を行うが、スタッフがあまり先回りしすぎない様、注意する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、施設や入院先に出向いたり、施設などに移られる時は、相談にのったり、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人に受持ちスタッフをつけており、ゆっくり話をしたり、困りごとや不満がないか聴ける体制を整え、スタッフ皆で話し合う場を設け、ケアにつなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	紹介先からの情報提供書やご家族からの情報を基に、整理し、スタッフ全員で情報の共有に努めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録、申し送り(ノートを活用)、バイタルの変化等を把握した上で、ご本人の状態、状況を観察していく。ここ最近の様子の変化等は、必ず申し送りし、カンファレンスしながら、スタッフの注意を高めるようにする。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスや受持ちによる評価も実施し、家族意見も含めた上で、プラン作成やモニタリングを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等について、個別の経過記録に記載し、職員間での情報を共有しながら、必要時カンファレンスを行い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や、ご家族の状況、要望に合わせて、夜の電話や面会、外泊や、ご家族との外出・買い物・外食等と行えるよう支援している。又、交流室を利用しボランティア(地域)の方々との交流が行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防と協力しながら支援している。消防の方には年に一度は来て頂いて、防火訓練、救急蘇生法の講義・実施指導等行って頂いている。園児・児童との交流もさかんで、地域の方々の協力も得られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、通院介助はご家族で行って頂いている。しかし、認知症専門医の受診時、病状説明をされる時や、状態の変化等での相談の時は、管理者も立ち会うようにしている。必要なかかりつけ医は継続して頂くが、急変時の対応等も考え、ホームの協力医療機関での定期往診は受けて頂くよう働きかけている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ユニットには看護師1名勤務。何か異常があれば、スタッフから看護師に報告するようになり、必要に応じ、主治医(訪問診療)へ連絡相談。定期的、臨時的受診が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、早期退院のための話し合いや協力は、機会あるごとに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様が、重度化した場合等における対応の指針を作成し、家族に説明している。主治医、ご家族、ホーム間でも話し合いを行いながら、ご本人に合った安心して迎えられる終末期について考えていくようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回、消防署より、署員の方に来て頂き、救急蘇生法や、応急手当などの研修を受け学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難・通報訓練を行っている(日勤帯想定・夜勤帯想定)。運営推進会議を通して、地域の方々への協力要請を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の想いや人格を尊重し、日頃のケアを行っている。言葉かけやケアを行う上で自尊心を傷つけたりすることのない様注意している。定期的に勉強会を行い、不適切な対応の場合は、注意しあっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	きちんと向き合い、寄り添いながら話しを聴く時間を出来るだけとる様に留意し、対応をしている。その方の能力に合わせ、聴き方も、本人が選べるよう、選択肢を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな日課はあるが、利用者様の生活のペースを乱さないように又、本人の体調や気分等に合わせ、意向を聴きながら声かけをしお手伝い等して頂いている。しかしながら、入浴等は、職員の都合になりやすい傾向にある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外での散髪が出来ない方は、訪問美容を利用し、散髪などされている。又、本人の好みに合った服を着て頂いたり、入浴後や起床後、スタッフと一緒にヘアスタイルを決めておしゃれを楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様個人の好物をメニューに取り入れたり、季節を感じられる献立を取り入れたり、個人の能力に応じたお手伝い、調理、配膳、台拭き、食器拭き、皮むき等を行ってもらっている。時には、中庭で食事したりしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った、量等を把握し、盛り付け時、量の調整、盛り付け方の工夫、形態の配慮(キザミ等)又、水分がとりにくい方へは、出来るだけ食事や他の食物から水分が入るよう工夫している。水分量のチェックも行っている。又、担当スタッフを中心に栄養評価も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様一人一人に合わせた口腔ケア支援(声かけ・見守り・介助)を毎食後に行っている。毎日の夜間の義歯管理も行い、又、義歯は週一回、義歯洗浄剤による消毒を行っている。歯科医師による検診及び訪問診療の体制がとれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し誘導、見守り、必要時介助、オムツ使用を行い、出来るだけ自立に向けての支援を行っている。落ち着かれない行動や仕草等をキャッチしトイレ誘導が出来る様にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食材の使用、牛乳の飲用、水分摂取に留意し、又、おやつに計画的にカライモを組み込んでいる。必要時、腹部マッサージを行ったり、どうしても自然排便が困難な方には、主治医と相談し下剤を服用して頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんで頂くために季節の行事ごとに、菖蒲湯やゆず湯等を行っている。その日の心身の状況も加えてリーダーと入浴担当者がアセスメントしながら入浴の判断等を行っている。好きな時間に自由に入浴して頂くという事では、殆どの方が見守り・介助が必要なため、出来にくい現状である		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンが違う為、まず把握をしてその中で安眠出来る様にしている。不眠にならないよう適度な運動、活動量のアップに努めている。日中は休息が取れるよう、その方の状況に合わせて、午睡やリビングでくつろいで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用・副作用・用法・用量については、薬局より説明書を必ず貰っている。服薬チェック表を用い、配薬準備時のダブルチェックを行い、さらに、服薬に至るまでに確認を重ねる。処方内容変更時は、スタッフ全員にいきわたる様に、必ず記録に残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、掃除、洗濯物たたみ、ちり紙たたみなど、それぞれが出来る事や得意なことが出来るように、ケアの中に取り入れていくようにしている。また、定期的な外出が出来る方には、それが継続出来るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節的なものや、重症化でなかなか外出出来にくくなっているが、近くの公園に散歩に行ったり、それも出来ない方は、中庭に出て気分転換が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、ご自分でお金を管理されている方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりが出来る様支援している。自分で電話をかけられない方には、スタッフがかけて差し上げている。手紙も必要時は代筆を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関からリビング、共有の場まで出来るだけ家庭的な雰囲気が味わえるように装飾品には気を使い、季節の花や絵、行事の写真等を飾り、無機質な感じがないように心掛けている。飾り等も毎月変えている。陽射しの加減については、利用者様に尋ねながら、調整している。刺激の強い物などは、チェックし居心地の良い空間づくりに努めて		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の気の合う者同士が気兼ねなく過ごせるように座る位置やテーブルの位置等、その都度検討しながらセッティングしている。変更が必要な時はカンファレンスを行っている。また、一人で座れる椅子も用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に、出来るだけ本人の馴染の物を持ってきて頂くようにし、本人や家族に安心して生活してもらえるようにしている。ホームでの家具設置はしていない。又、入居後、お誕生日カードや家族との写真等を居室壁に飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、床もソフト素材にしてある。手摺りもつけてあり、安心した歩行が出来る様になっている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372601098		
法人名	有限会社 ヒューマン・ケア		
事業所名	グループホーム ヒューマンケア(はなみずき)		
所在地	熊本県合志市幾久富1909-700		
自己評価作成日	H29年11月20日	評価結果市町村報告日	H30年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	平成30年1月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節の木々や花がいつでも観賞できる建物の構造になっており、入居者や家族がゆっくり過ごせる中庭がある。歌や尺八、日舞、ギター、おやつ作り、みそ造りなど多種類の地域ボランティアの訪問があり交流を通し関わりが持てるようになっている。また、地域支援事業の一環でホームでの食事作り支援を受けており、更に連携が持てるようになっている。交流室においては地域の放課後子ども塾、今年度に入り子ども食堂の活動拠点として場所の提供を行っている。合志市とのタイアップである公園管理や子ども支援に関しては、事業所の代表が中心となり管理や支援を担う。入居者様の健康管理に力を入れており、定期往診体制として循環器科内科、歯科、皮膚科の訪問治療を行い薬局からの薬剤管理も受けられるようになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との繋がりを大切にしている事業所では、開設以来変わらず地域住民との積極的な交流が続けられている。事業所敷地内の地域交流室では入居者との行事だけでなく開放され、子育て支援等、様々な用途で活用されている。代表者からは地域や職員に向け折々「理念」への思いが伝えられ、職員にも浸透している。変わらぬ支援を実践しながらも、今年管理者の交代があり、職員の入れ替わりも見られたことで新たな取り組みに向かう様子も各所に見られた。毎月の職員会議では職員のコミュニケーションがチーム力を高め、専門職として意識を高く持ちスキルアップと職員へのサポート・啓発にも積極的で、研修会や勉強会への参加もケアに対する意識の高さも伺えた。近年入居者の高齢化・重度化で日常的な外出は難しくなったが、事業所の特性を活かし、地域の方々の訪問、ボランティア訪問、地域支援事業での昼食づくり支援と、様々な交流の場が設けられている。また「入居者と家族の絆」を大切にしており、あらゆる場面で家族の関わりが見え、事業所・地域・家族と入居者を取り巻く皆で支える姿が見られた。今後も入居者ひとり一人の役割を持ち続けられるような支援を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の拠点となる意義を踏まえた理念になっており、その考え方を代表から会議を通して聴く場面も多い。理念を元にケアの実践ができるように注意している。	入居者の尊厳と地域との交流を掲げた理念は事業所の各所に掲示されている。毎月の会議や運営推進会議等で代表自らが理念について話す機会も多く、職員の共有へと繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアや食事作り支援の方または保育園児の来訪など、日常的に交流を持つ機会が多い。また、交流室では多種のボランティア団体が発表の場として行事を行っている。	近年入居者の積極的な外出は難しく、事業所行事での地域住民来訪、保育園児との交流等来訪による交流を積極的に行っている。事業所には地域交流室があり、様々な用途で地域に開放され利用されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームへの来訪時に相談を受ける機会があるため、いろいろな説明や他の事業所紹介などを行っている。ホームから出て行き活動することはまだ少ない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催でホームの現状を詳しく説明し、多方面からのいろいろな意見を聴く機会が持っている。意見を基に更に検討し、ケアの実践に繋がられている。	地域の代表者等をメンバーとし、職員も当番制で出席している。代表からの理念についての話、全体研修会を盛り込み、地域と共に入居者を支えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員に入ってもらっているため、定期的に報告や相談ができています。細やかな情報提供を受けられることで早期実践ができています。	運営推進会議のメンバーでもあることから、日ごろの事業所の様子も積極的に伝えている。熊本地震の際には市と提携し、市内外住民に関わらない高齢者の受入れや避難場所の確保等を行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全体で行っているリスクマネジメント研修の中に身体拘束・虐待防止に関するものを年に2回入れている。定期的にかつ繰り返して勉強する必要があると認識している。	年間計画で定期的に勉強会を行っている。職員は日常的に気づきがある場合は業務中に互いに声を掛け合う体制が整っている。帰宅願望が見られる際には一緒に散歩する等、職員の工夫で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	上記記載に加え、今年度より虐待の要因となっているスタッフのストレスケアについても研修を行っている。		

グループホームヒューマンケア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、ケアマネが学ぶ機会はあるが、スタッフが学ぶ機会は少なく研修計画にも入っていない状態なので、認識が薄れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定時の説明は全入居者の家族と個別に時間を作り丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン説明時に必ず意見を聞くようにしている他玄関に意見箱の設置をしている。また、入居者一人ひとりにスタッフの受け持ちを決め細やかな対応ができるように配置している。	面会時には必ず声を掛け意見を伺う機会としている。職員は入居者の担当を持ち、また多様な家族参加の行事開催、ケアプランの説明、通院他、家族との「絆」「関わり」を大切にし関係を築くことで意見を頂きやすい環境を作りを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回定期的に代表が開催する”方針会”で全体的な報告や意見交換ができるようになっている。	代表者も参加する会議「方針会」にはほとんどの職員が参加しており、職員一人ひとりが直接意見を述べる機会がある。日常業務でも各ユニットとも管理者が職員に気を配り話を聞く姿勢を持つ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフに負担がかからないように、またはやりがいを持てるように常に職場環境を見直し改善する姿勢がある。今年度はスタッフ全員に対してアンケート調査を実施した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人ひとりに合った、又は望まれる研修への参加に積極的に取り組み、勤務として参加できる。また、勤務しながらの資格取得に関しても全面的に支援する態度がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での研修会や会議の場には積極的に参加し、ネットワーク作りを推進している。合同研修会を通じお互いの現状を確認し、相談ができやすくなっている。		

グループホームヒューマンケア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人様との面談で不安や要望に関して聞く機会を設け、事前に短時間過ごしていただけるように体験訪問の導入を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が窓口となって話を十分聞く時間をもち、それをスタッフに伝えて情報の共有を図っている。窓口を作ることで家族が安心されるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の状態は変化していくという事を前提として日々観察し、その時点に合った対応を考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が何をどれだけできるのか十分見極め、役割としてして頂くようにしている。食後の片付けや洗濯物たみはほとんど入居者の仕事となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所が全ての業務を一方的に行わないように、家族に直接して頂く部分を作っていくようにしている。他科受診や衣替え、物品の購入などは家族が中心となり実行している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を制限せずいつでも訪問していただけるようにしており、今まで利用していた地域のサロンに出かける方もいる。	地域サロンへの参加、友人からの面会、家族行事への参加・宿泊等の支援を行っている。家族の協力も大きく、事業所と家族が共に支援する関係が見える。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士が好きな場所で過ごせるようにし関わりが持てるような居場所づくりに注意している。ソファーやテーブルでの位置はその都度話し合いを設けている。		

グループホームヒューマンケア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も状況をお尋ねしたり、ハガキを送ったりしてその場で交流が途絶えないように注意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの聞き取りを中心として要望に関しては詳しく情報収集を行っている。入居者全員に対してスタッフの受け持ちを決めさらに深い部分まで関わり把握できるようにしている。	職員は日頃から入居者との会話を大切にしており、特に入居者と個別に過ごす機会にはじっくり向き合い寄り添うことで思いを把握している。入居者・家族からの意向は日々の暮らしだけでなくケアプランにも繋がるものとして大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のインテークの部分で詳しく情報を聞き取り、紹介先からは情報提供書を受けている。ケアマネージャーとの面談も細やかに行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜間を含む24時間の状況を詳しく観察し、ケア計画表を各受け持ちスタッフが作成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との話し合いの下でケアプランを作成し、プランの確認や修正などを全スタッフで定期的にカンファレンスしている。	職員は担当入居者のケアプラン評価を行い、その後全職員で意見交換を行っている。日頃の入居者・家族からの意向も取り入れ、定期的に見直しを行う介護計画の説明には必ず家族へ面談し、直接話し合い、報告を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の状況を正確に、そしてわかりやすく記録するように、今年度は全体勉強会を通して統一した記入法の強化をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域支援事業所からの人的支援、福祉用具利用、訪問歯科診療、皮膚科往診など一人ひとりのニーズを検討して、事業所としての連携を取っている。		

グループホームヒューマンケア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	多量のボランティア団体、保育園、地域サロン、地域支援事業所、公園管理組合など関わる地域資源が多く存在し入居者との接点も多い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	元々のかかりつけ医を継続して利用される家族とホームの連携医である所の訪問診療を利用される家族がある。本人様と家族の希望で決定するようになっている。	以前からの受診支援を行っているが、入居後協力医への変更も多い。協力医は毎週訪問があり、入居者は月2回の診察となる。救急時往診もあり協力体制が整っている。歯科・皮膚科以外の専門医は通院となるが、家族にも関わりを持ってもらい、協力しながら職員の通院介助も行う。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに看護師を配置し日常的な健康管理や早期処置、医師への相談や指示受けができるようにしている。スタッフは入居者の状況把握を行い速やかに報告できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は情報提供をお互いに行い共通した情報が持てるようにしており、病院の連携室担当者と密に連絡を取り合うようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より終末期、看取りに関する指針説明を行い、家族の気持ちや希望を確認している。また、看取りの状況に近くなった時期にはさらに詳しく細やかに説明と確認をしている。看取り時は家族もチームの一人として入ってもらっている。	重度化が進む状況となる際には医療機関と連携し、家族と話し合いを重ね支援方法の確認を行っている。看護師も勤務しており、事業所他関係機関・家族一体となった協力体制が見られる。看取り後の職員・家族の心のケアにも力を入れ、看取りについての勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練の中で1年に1回は救急蘇生法と救急搬送法について訓練研修を受けている。今年度はマニュアルを作り直しスタッフ研修を行ってきた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回かならず避難訓練を行うことでスタッフ全員の意識が薄れることなく維持できている。熊本地震を教訓に地域での協力体制を少しずつ得ている。	年2回災害担当者が中心となって避難訓練を行い、動きを確認しあっている。以前から地震の講習会に参加したり不測の事態に備え研修を行っていたが、熊本地震以降、地域との連携・協力体制の整備に更に力を入れている。	

グループホームヒューマンケア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの状況や能力に合った声掛けを行い、人格を尊重した対応をするように心がけている。居室で過ごすことを好まれる方にはそっと見守りをしている。	研修では虐待・身体拘束・尊厳と入居者の尊重について行い、繰り返し振り返ることで職員は意識を持って業務に臨んでいる。日常の中で不意に気になる言葉が出た場合は、職員同士で注意し合う体制ができています。	職員の入居者への対応は意識高い様子が窺えました。高齢化等により入居者の意欲の低下も見られますが、入居者の方々の生きがい・やりがい・以前からの生活習慣の継続を続けて支援されることに期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの主導ではなく本人様に意向を確認してから介助するように注意している。最近では表出できない方が増えてきているのでみんなで検討する機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や行事参加、就寝時間など本人様の希望をその時に確認し、できるだけ希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の馴染みがあり好まれる物を家族から持参してもらっている。また、以前からの馴染みの店に散髪に出かける方もいるが、2か月に1回の訪問理容もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを取り入れた献立を作り季節の食材を多く取り入れるように注意している。食後の片付けは入居者、スタッフが一緒になって行い日々の役割として定着している。	献立は入居者の好みも考慮し、職員が立てている。献立・材料は同じだが各ユニットで作ること食事作りの様子も感じることができる。地域支援事業で食事作りを受け入れ、地域の方と触れ合う機会ともなっている。ボランティアでおやつ作りもあり、手を動かすことが自然と入居者のやる気になり大きな力となる場面もある。	食事時には車椅子の方も食卓椅子への移乗し、職員も同じ食卓で共に時間を過ごされています。介護度の高い様子の入居者も、食事後食器を重ね、寄せたりする手の動きも見られ、食事の時間を生活の一部と大切にされている様子が窺えました。是非継続して欲しいと思います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嚥下機能や必要なカロリー、形態を評価検討して食事準備をしている。現在は普通食からミキサー食、トロミ使用者など食事形態が多岐にわたる。ミキサー食でも彩りよく丁寧に仕上げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各食後の口腔ケア、就寝前の義歯消毒を徹底して行っており、週1回の訪問歯科診療では専門的にケアや治療を行い連携が保てている。		

グループホームヒューマンケア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、日中はできるだけトイレ使用での排泄誘導を行うようにしている。夜間においてもポータブルトイレを使用し自力での排泄ができるように支援している。	入居者それぞれの状況に応じ、「できるだけ自立」を目指し取り組みを始めている。現状を確認、アセスメントを取り直し、見返しを繰り返すことでおむつ代削減にも繋がる様支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の水分摂取量を確実にを行うこと、繊維物の多い食材やサプリメントの使用、、バランスのとれた献立の作成、体操など日常的に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人に意向を確認してからその日の入浴者を決定している。重症者は負担がかからないように計画的に行ったりシャワー浴に切り替えたりして希望だけでなく身体的評価も同時に行う。	体調も考慮しながら最低週2回以上の入浴支援を行っている。ほぼ全員介助が必要になり2人介助も多くなった現状もあり、職員の介助の在り方・工夫で支援を継続しているところである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態を十分観察し、ソファーでの休憩やベッド臥床時間をどれくらい作っていくのか検討している。良眠できる寝具の調節や空調管理にも留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服説明書をファイルし、看護職員のみならずスタッフ全員が薬剤作用や副作用についていつでも調べられるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意なもの、好きな事を取り入れたレクリエーションを行ったり、気分転換に中庭でのお茶会、隣ユニットへの訪問、自動販売機での飲料水購入などを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族支援による定期受診や自宅への外出、ドライブ、食事などに出かけられる機会が多い。しかし、最近は車いす使用の重度の方が多くなり外出の頻度は少なくなってきた。	家族協力での外出もよく見られる。日中を過ごすリビングは中庭を囲み、天気の良い日は日光浴を楽しんでいる。近年、高齢化等で個別の散歩・外出は減ったが、ユニット間を訪ねたりと気分転換も図られている。	

グループホームヒューマンケア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方がほとんどおらずホームでの預り金として管理しているが、使用したい時はいつでも使用できる。自分で持つことができる方に関しては自由に所持できている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば直接電話できるように、スタッフが支援している。年賀状などはがきを出すこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃を徹底し清潔な環境を維持することや居心地の良い空調や光彩などを常に気を配っている。また、季節が感じられる室内の装飾は毎月当番制で変化させるようにしており楽しみの一つとなっている。	事業所内の装飾は毎月担当職員が受け持ち季節に応じた飾りつけを行っている。まるで家庭の様に入居者が集う日当たりの良い居間は、ソファークッションが数ヶ所に置かれ、それぞれの場所で思い思いに過ごす姿が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが過ごしやすい場所、好きな者同士が仲良く過ごせる場所を検討してテーブルやソファの配置を決めている。固定化せずその時に適した配置を話し合う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の馴染みのある物を使用してもらっているが、日々変化してくる中ではその都度その時に適した物を家族に準備してもらったり購入してもらったりしている。	家族の協力で入居者に馴染みのある生活用品が持ち込まれている。フローリング・畳の部屋があり、介護度の高い方も出来るだけ離床し穏やかに過ごせる様、配置にも工夫がある。入居者が共有の居間で過ごしている時は、居室の窓を開け換気を行う等、環境にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで入居者がすぐに見渡せる造りにしてあるため、他者の動きが見やすく自然にお手伝いなどの誘導ができる。物の配置はその都度検討している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 ヒューマンケア

作成日 平成 30 月 2 月 13 日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	日常生活の中に元々の生活習慣や趣味を上手く取り入れていない	入居者の想いや望む生活を把握し、それを活かすことができる	①ご本人の生活史を踏まえて、再度生活習慣の情報収集を行う。 ②レクなどに入居者の趣味を取り入れた内容を計画する	H30/3/1～ H30/8/31
2	40	食事の準備から片付けまでの作業の中で、入居者の力を発揮できる場面が少ない	入居者が活躍できる場面を検討し、それぞれの残存機能に応じた役割が持てるよう支援する	食材の準備や盛り付けなどをできる範囲で、スタッフと一緒にを行う	H30/3/1～ H30/8/31
3	12	入退職があり慢性的な人員不足であることで、スタッフの負担感が大きい	就業環境を整え、スタッフのモチベーション向上に努める	時間外勤務にならないようルーチンワークの整備を行う。また、設備などを整え身体的負担の軽減に努める	
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。